

爾後の發行は全く不可能に陥つた。その他社會政策學院は北あろん、講習講演等の開設は一切不可能となり、高等工學院はわおかに命脈をついけたものの、教師生徒の通學は全く失調状態となつたのである。

この非常時下にあつても、協調會職員の出勤と調査の進行とに督勵を加えられ、社會政策研究會その他の研究會もこれを續行し、社會政策時報は騰寫印刷で續刊し、高等工學院には和田校長を迎え、教師には待遇を高め、また圖書館藏書五萬余冊は大宮市針金村に疎開する計畫を進めたのである。

## 第二項 終戦後の對策

四九八

昭和廿年八月終戦によつて、わが産業労働界は新たな世紀を迎え、協調會は廢墟の中から産業平和の新建設に向つて奮起しなけりばならなかつた。

四九九

その第一は、役員殊に理事の充實で、九月から着手された。そのうち最も関心を傾けたものは、労働運動界の學識経験者の参加を求めたことであつた。先づなるべく急進を避けることとして三輪壽社氏の同意を得た。ついで社會政策學院長として大河内一男氏、労働立法調査委員會主査たりこ村瀬直養氏、元國際労働機關鮎澤巖氏（現中央労働委員會事務局長）の同意を得た。これについて會長副會長の更任のあつた次第は、本誌に記録されたりある。